

大学の世界展開力強化事業(2020年度選定) 宇都宮大学 取組概要

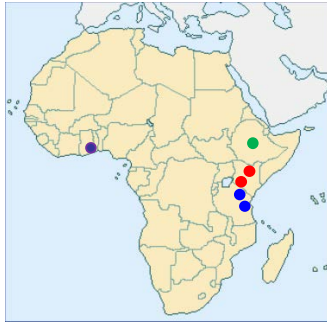
【事業の名称】(選定年度2020年度・タイプA①)

アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム

【交流推進事業の概要】

- ・分子農学及びスマート農業に基づく高生産性農業の確立
- ・高生産性農業に基づく持続的地域社会の構築

- ケニア・ジョモ・ケニヤッタ農工大学
- エチオピア・アジスアベバ大学
- タンザニア・ネルソンマンデラアフリカ科学技術機構
- ケニア・メル科学技術大学
- タンザニア・ダルエスサラーム大学
- ガーナ・ガーナ大学



SDGsの17の国際目標に基づく相補的教育

目標1~9: アフリカ側の課題・問題
目標11~15: 日本側の課題・問題



● 宇都宮大学

地域創生科学研究科
文理融合教育研究



高生産性農業の確立

- ・分子農学プログラム
- ・農芸化学プログラム
- ・農業生産環境保全学プログラム

持続的地域社会の構築

- ・農業・農村経済学プログラム
- ・農業土木学プログラム
- ・グローバル・エリアスタディーズプログラム

短期・長期留学: 3ヶ月~1年

夏期・春期プログラム: 2週間

短期インターンシッププログラム(栃木県内企業及び
アフリカの日系企業で実施): 3週間

【交流プログラムの概要】

文理融合の教育研究

地域創生科学研究科は、新しい領域への挑戦と創造を可能にする体制。

地域社会への理解促進

地域社会の社会構造を理解し潜在力に着目したアプローチ。その理解に基づき、分子農学及びスマート農業技術を活用して食料生産を飛躍的に向上させる高生産性農業を確立し、これを基に流通・加工・販売システムを構築。地域社会の持続的発展に貢献出来るグローバルな高度専門職業人の育成。

企業との連携

栃木県内の企業およびアフリカの日系企業と連携して、フィールドワークやインターンシップを通して実践力向上の機会創出。

宇都宮大学
地域創生科学研究科による推進



高生産性農業に関するプログラム

分子農学とスマート農業関係を中心として、地域創生科学研究科の分子農学プログラム、農芸化学プログラム、及び農業生産環境保全学プログラムにて実施。

地域社会の持続的発展を目指すプログラム

地域創生科学研究科の農業・農村経済学プログラム、農業土木学プログラム、及びグローバル・エリアスタディーズ・プログラムにて実施。

SDGsに貢献できる人材育成

SDGsに関連する潜在力発見・課題解決型のプロジェクトチームをアフリカからの留学生と日本人学生がチームを作り、関連講義での学びを通して政策立案につなげ、アフリカでの高生産性農業の確立に寄与。

【本事業で養成する人材像】

文理融合の教育研究を特徴とする宇都宮大学大学院地域創生科学研究科における農学及び国際学関係のプログラムにより、アフリカにおいて、地域の社会構造や潜在力を理解し、食料生産から流通・加工・販売システムまで含めた高生産性農業を構築し、日本とアフリカの持続的発展に貢献できるグローバルな高度専門職業人の育成を目的とする。

【本事業の特徴】

本事業は、第1に高生産性農業に関するプログラムであり、分子農学とスマート農業関係を中心とした地域創生科学研究科の分子農学プログラム、農芸化学プログラム及び農業生産環境保全学プログラムである。第2にアフリカの潜在力及び高生産性農業を基盤として、流通・加工・販売システムの構築を通じ、アフリカ諸国における地域社会の持続的発展を目指すプログラムであり、地域社会の社会構造を理解し潜在力を生かしながら、分子農学及びスマート農業技術を活用して食料生産を飛躍的に向上させる高生産性農業を確立し、これを基に流通・加工・販売システムを構築することにより、地域社会の持続的発展に貢献出来る高度専門的人材を日本とアフリカが共同して育成するものである。そのため、本プログラムでは、農学だけでなく工学、経営学、地域研究、国際開発学、法学、社会学等、複数の学問領域に精通した高生産性農業の確立に必要な技術と知識を身に付けるグローバルな高度専門職業人を養成することに特徴がある。

【交流予定人数】

		2020	2021	2022	2023	2024
派遣	実際に渡航する学生	2	3	6	6	6
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	5	10	15	15
受入	実際に渡航する学生	2	3	6	6	6
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	5	10	15	15